

第2回推進幹事会・懇談会での主な意見と対応

1 推進幹事会（7月27日開催）

	主な意見	対応
基本方針	■基本方針1「全ての世代」基本方針3「全ての市民」の使い分け	・基本方針3の「全ての市民」を削除しました。
	■ヘルスリテラシー ・市民にとって馴染みの薄い言葉であるため、表現を見直す必要がある。 ・すべての分野に通じる考えであり、独立させるのは違和感がある。 ・評価指標として適当なものがあるか。	・「ヘルスリテラシー」を「健康意識」という表現に変更。健康意識が、すべての分野の取組に先行し、かつヘルスプロモーションの考えにおける市民の主体的な健康づくりにつながるという考えとしました。
取組の方向性	■次世代 ・幼少期からの社会的環境が健康に影響を及ぼすため、若い世代の啓発に力を入れることは、今後の健康づくりに効果がある。	・母子保健計画の健康増進に係る部分が含まれるうえでも、「次世代」の教育、健康づくりの支援に重点を置いて記載します。
	■環境整備 ・社会的環境、公園や図書館が近くにある等が健康につながるため、「暮らし」にとけこむ健康づくりには、環境づくりに重点を置くとよいのでは。	・「暮らし」にとけこむ健康づくりの大事な要素であり、計画期間で取り組みます。

2 推進懇談会（8月6日開催）

概要	主な意見	対応
評価	■PDCAサイクルを意識した計画 ・第2次計画では、各分野で具体的に数値目標と方向性を立てて活動し、数値目標のレベルでそれをレビューして実績を評価するという点が希薄であった。第3次計画では取組と結果を評価できるようにする必要がある。	資料3「分野別取組」でご説明します。
	■第3次計画で新たに取り入れる視点 ・すべての分野について、「中核市移行に伴う、より身近な保健施策の展開」等、第3次計画で取り入れる新たな視点が含まれているかどうか確認する必要がある。	

	<p>■取組が成果にどうつながっているかの見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの取組が、どんなふうに影響を及ぼして、吹田の健康指標が良くなっていったのかが実感できるような評価の仕組み、目標や評価の基準を統一するというような視点も重要。 	現在、検討中です。
	<p>■QOLの定性的な評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分らしく、笑涯、輝く」をはかれる指標があればよい。 	現在、検討中です。
取組の方向性	<p>■ライフステージの視点（特に就労世代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労世代は親世代でもあり、子どもたちの健康に影響を与えるうえ、就労世代が、今後高齢化していくにあたって、この世代が健康的な習慣を身に付けることが将来の健康を守るために大事。仕事や家庭に多くの時間を取られやすいため、効果的なアプローチがあれば。 ・親世代は多忙なため、子どもへの教育を通じて親に伝えてもらうアプローチも有効か。 ・自治体が行う事業というところでは青年期、壮年期への支援が途切れてしまいやすいため、産業保健分野との連携や、どうコンタクトをとるかなどの工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、地域団体のそれぞれの取組や、企業との連携により、行政だけでは手が届きにくい就労世代へのアプローチを、第3次計画で引き続き取り組みます。
	<p>■産学官民連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官民が連携するなら、単発で終わらせず、行動変容につながり、継続できる仕組みを考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分野別取組のなかで個別に記載します。